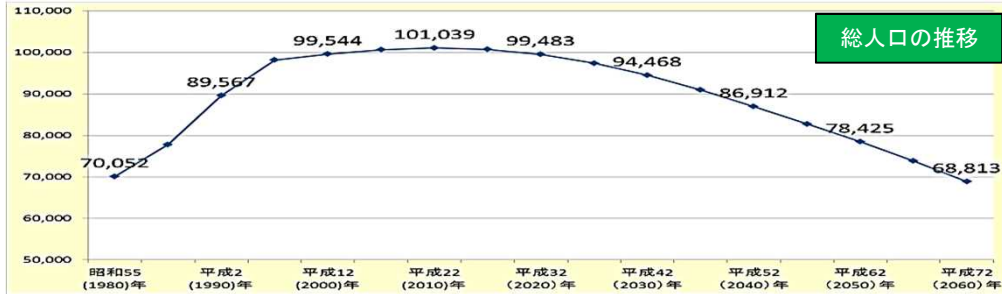


# 伊勢原市人口ビジョン(案) 概要版

## 人口の現状

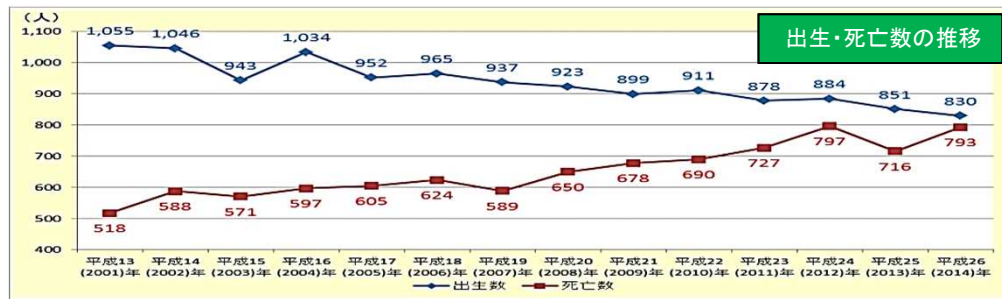
### ○総人口の推移

国立社会保障・人口問題研究所の推計によれば、現在、約10万1千人でほぼ横ばい状態となっている本市の人口は、今後緩やかに減少し、平成72(2060)年には、約6万9千人となる見込みとなっています。



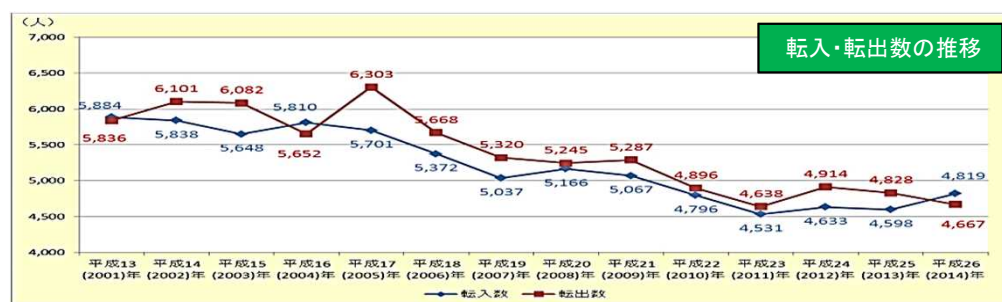
### ○自然動態の推移

本市における自然動態は、死亡数より出生数が多い“自然増”の状態が続いていますが、その差は縮まっており、近い将来、死亡数が出生数を上回る“自然減”の状態となり、本格的な人口減少社会を迎えることが想定されます。



### ○社会動態の推移

本市における社会動態は、平成18(2006)年以降は、ほぼ一貫して転出数が転入数を上回る“社会減”の状態が続いていましたが、平成26(2014)年は10年ぶりの転入超過となっています。



## 目指すべき将来の方向

### ①新たな雇用の創出と魅力発信により、本市への定住を促す

若者に魅力ある職場を創出し、雇用の拡大を図るとともに、高齢者や女性など、様々なニーズに合った就労環境を整備していきます。  
また、本市の多彩な魅力を効果的に発信し、交流から定住への好循環を生み出していきます。

### ②若い世代の結婚・妊娠・出産・子育ての希望に応える

若い世代が安心して結婚・妊娠・出産・子育てを行える環境を整え、出生率の向上と自然動態の改善を図っていきます。

### ③時代に合ったまちづくりを進め、住み慣れた地域での暮らしを支え合う

社会環境の変化により生じる様々な課題の解決に取り組み、地域による支え合い助け合いの中で、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らすことのできる環境を整備していきます。

## 人口の将来展望

### ○出生率の向上

国・県と連動した施策の推進と、出産・子育て等に関する社会全体の理解や環境が整うことで、平成62(2050)年に人口置換水準の2.07まで合計特殊出生率が上昇するものと見込みます。

### ○社会移動の均衡

今後5年間は、転入超過を見込み、平成32(2020)年以降は、社人研における純移動率の仮定と同じとし、長期的には転入数と転出数が概ね均衡するものと見込みます。

将来展望における仮定が実現すると、

総人口は、平成72(2060)年に、82,100人になります。

人口構成は、平成62(2050)年頃を境に「若返りの時期」を迎える見込まれます。

